

80

79

78

77

76

75

74

73

72

71

70

69

68

67

66

65

64

63

62

61

60

59

58

57

九

和朝

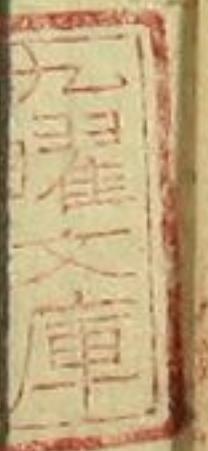
今昔物語

卷之九



今昔物語 部九 目錄

○世俗傳



- 一 近衛舍人詣稻荷社茨田重方值女語
- 二 貞道季武公時紫野見物語
- 三 曾祢好忠椎名子日遊語
- 四 尾張國司五節語
- 五 越前守為盛饗食六衛官人語

今昔物語 傷部九

○世俗傳

一 通衛令人詣稲荷茨田重方值女語

今ハシテ。二月のはじら年れ日。茨田の妻賤稲荷  
ゆゑどもあすき鳥るなり。かつ年通衛官れ令人  
じととあくま。宝滅。乃画付。下野公勅。茨田重方奉或貢。  
茨田為因。通部公支。御袋被子酒す。りてか  
ほきて。まうるふ。中乃高止はらへたわくとみく  
け。一來女ゆきあひて。農と。か。行梅萌黄  
やく。か。まの。きそ。あひて。あも。う。げ。全人ぞ。

女本りやくふ立うれしる。舍人どもれどもアレ  
ひうあて。女が絹をアシム。難事アシガ。がとくう  
くもんをあつて。妻もほりよし。ねどもくらぶ。ちく  
ぢくよど。アシムをきりけふ。じゆう月をほあた  
え。あ。らくあくまゆやうみ相うてぬ。がとくえ  
のくぬりと。さんと。わくけまつづく。さくらう  
て愛敬づき。重方がいとく。わの君く。うせうと  
賄妻アシムと。やまと。まか。旅の様。ゆか。がの賄  
アサヒあれ。まかんとわよど。縫りよくあたが

やうれびをめつてきくとくよアキモト。とくにじと  
くとやうじと。がときこゆうからといへば。女うれしひは  
ちくよ。アシムと向う。重方川井社の神モカニ。せ  
年未ひゆと。ちくよ。がくまううらう。よ。神のアレ  
りうるややまくば。アシムと。神くわせ。清もい。寡よ  
てれども。アシムと。ゆきと。うよ。女アシム。  
男もなくて。相手のアシムと。せけまご。宮仕あと  
アシムと。アシムと。あくろ。アシムと。やれ。身のゆ  
すゑ。おれ。アシムと。よ。げ。汝社めをゆうじはらたり。  
まくおゆきと。アシムと。うと。うと。うと。

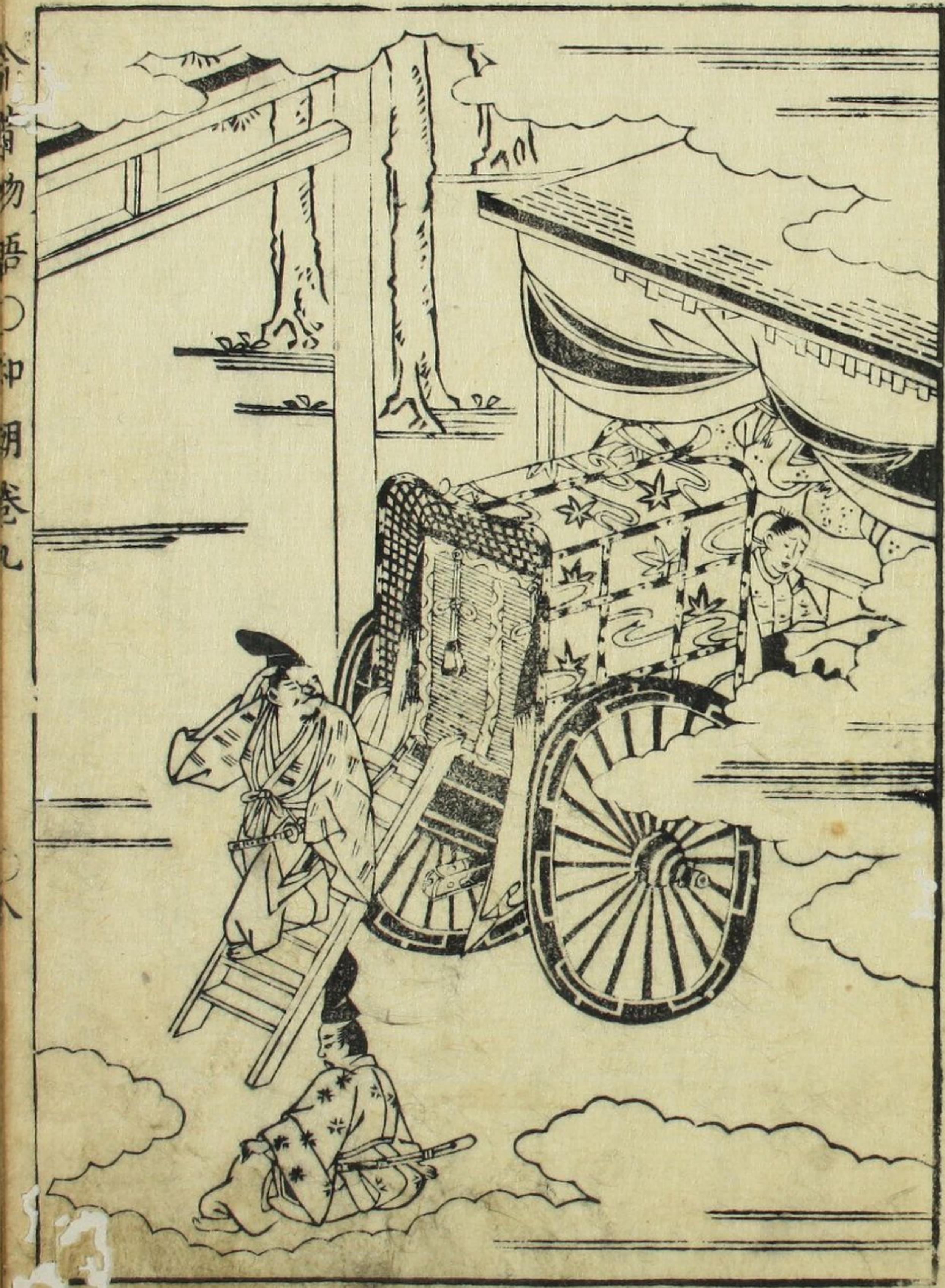


わすれどもだむよいか。ひづいた脇をまくらで、さる  
やうと寝てさうはねば。されどまゆひをうなげぬと  
を告ふる。あくま。今宵よしり。絆みまくらが  
まくららひいへば。清社乃け野對けのとゆくとえん  
とく。絶縁へはく女のゆかゆべ。さづけはくら  
ゆくと。はまのくよゑを。わがさんとの。お重方  
迷惑へ。物語がくまくら。わがまくらをきく。  
ひくゆくしてくべども。がくまくら。ゆくを。  
吳全ぐぞひくと。ちくじと。上乃影おのひかげのぎくわ。  
田竹生たけのこ。わくらむと。すくらうとくわに。など

二  
負道李公時  
見物語

はまく車にまよひ。歎息あひをうそ。どうり種んと  
もがわうあと。一人がりく。其處をうべ。奮ふうとて  
女車のすにアラをば。やのれんをかきとて二人め者  
もげすは儀よきとすんと同ひて。大徳が車  
ウトモ下車がる。三人アヌ。賤棋水手。袴  
をまわる。腰物を。車内に。取られつて袖も生  
じて。あれび。隼脣。よしと女車とアラ。うり  
シテ。紫郎のうり。とゆく。じ。うれ。せ。み  
車ねあら。車を。うと。が車のい。うと。うわ。セ  
わ。もく。が。い。え。ね。う。頬を。あ。あ。い。れ。と。う

頬をあわきて作まゆまよと俯かれて。うらま  
うそをうそとがへり。がくしてりやふ。テテテテテテテテテテ  
も。鶴板よ物うそし。鳥帽をぬはして。おまえ  
牛の迷惑を。おまえにゆきとが。二月の老翁の  
やもくや。さりげに用。くやうは。あくま車。も。ち  
はたをあるやふ難を。もれをすてもやすや此  
事事よ。づきあう人乃。まくとじて。東をひ  
めうひうるまうひう。東人れかまくとせよ。がくも  
い男をす。ひとづくをつひあううう。がくも



紫郎は行ひてしも。二人の夫婦も道をうへ車に  
らせて。あらわくなり。氣きとなく目くみて。万乃  
物うちよるをゆきうかう。されば頭紙かしけは。  
尻しりをゆきあく。かねもびの肉にく。とくに瘦入  
たり。事ことなきとて物ものをつれど。まくらゆすに瘦  
へる者ものかへば。病びやくもじびて居ゐま。まませ  
こそ車くるまをうきてゆく。漸く目めを免  
たり。うちへりあく。寝入ねりこむへよねへよど。腰立こして。襟  
くさふとくさふ。れのくほよにうる。我われ  
合あ氣きのぞみ。多勢おおぜめゆれゆれうへとおきり。

貪うら乞うけ氣きから牛うし銅どう車くるま奴やつ桂桂り車くるまをゆきとくよ  
さくらんと奇き怪がいかくし。ようふきと。車くるまをとどまとどまそ  
けり。うるは我われが命めいや。そくもあがくままりあ。  
人ひとをすくへた。先さきとくとつひそ。ともとく  
後あと。二人ふたにんが車くるまをうわくと。車くるまをうへやうへと。  
皆みな革かわ鞆ぬととれて。馬帽ばぼうをも鼻くほのりりあでり。これ  
扇おうぎをとりて扇おうぎとゆくと。船津ふなづ乗のれ。一束いその家いえ  
くすり。うきよ。うきよ。うきよ。車くるまをあらう。と  
寧やすほとすん。もうねがうきよ。慮おもひく。うきよ。長なが  
くうきよ。一いっとも家いえうる車くるまをあらう。醉ゑゑゑと

中ノ年ノうましいが、つゝてわざんや  
ある。此事と後は李武がからくともうや。さるとばへ  
くるくちり

三 曾根恵忠相手子日遊語

今へし。圓融天皇位を去とうひく後。より日  
め逍遙のよう。船をくつて、ゆきをきく。  
堀川うち出でてもしく。二重うちもて、大官もよた  
ゆく。物見車こもれ。立きりつゝ。上達  
部敵と人け紫朱絣(お)へ事(こと)なじび。院の雲  
林院の南の大門へあふて。拂馬ゆきて、華郎小

拂馬ゆくれば。松岳乃か面。小ねてくすむくす  
子。遠水をもくはる。紙をかとまく。唐錦の平  
張とて、簾をくまと。板敷をくわへ。る欄をほくら。其  
のすくせかくかくわ。かくにとも同く錦の幕を  
いさぐ。拂馬もくく上達部の、だる。拂馬歎とく  
乃度城りく。其ゆ乃とく。幕とて。毛奇ども  
のれを數く。毛奇とれをく。拂馬もく上達部敵  
と人件よくく坐みる。毛奇候どもひづれく。毛奇  
方とぞしげ。拂馬もくて拂馬もく。拂馬にこく坐みる。毛  
奇候どもひ。太中臣旅宣(奈主神祇太源五代下駄引)



一 位攝政太政大臣

國院太將

大臣公季公。師輔公

公季子。兼家公弟

。

師輔公嫡男

國院太將

輔公季子。兼家公弟

。

事と聞らし。もや衣の頸面に引立てるのをあへば。若くいきよる下萬歎と人。曾丹がうつるよ寄く。幕れ下よりすばさういふ。曾丹が持衣の頸を取る。あ。幕乃外引出しけり。小舟舟ねこあづまと。げけまされば舟を隨身小舡人童ども。じろよ立て。舟をまわす。ひもととん。がくはくとぬ

ふく

四 尾張國司五節語

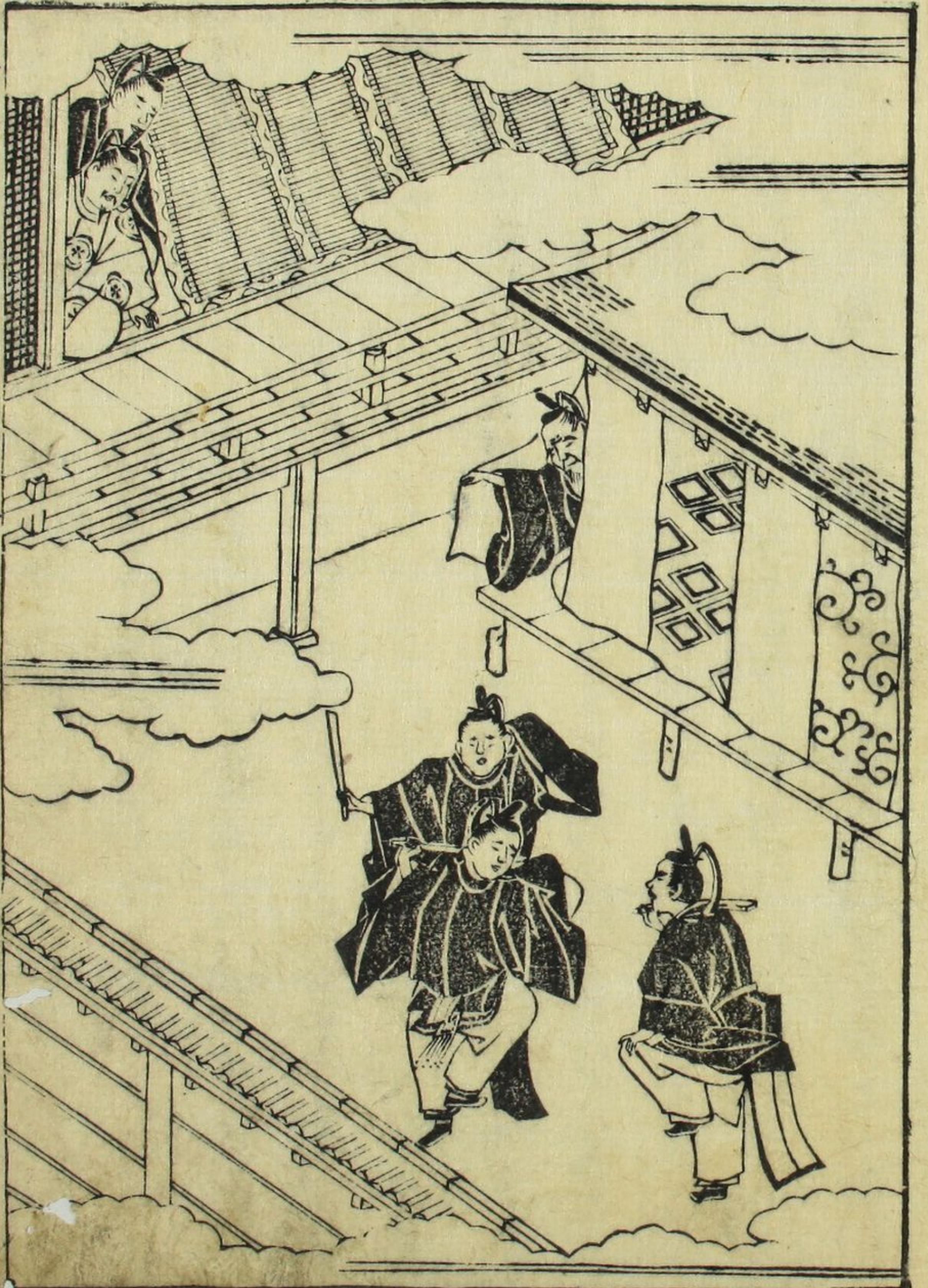
といきよ。やごく舊室領にて。窓をすくて。おづ

うかうかうじ。幸ゆて尾張守小さくうじ。うじ。うじて。住國みくどうあく。おの國司。政をあくして。田畠をうけて。田畠はくらともちうびう。此守あやうくんをばくして。領のりきすくもあきんばあきんをばくして。よくゆきあきんべ。國人よもじて。もとみよく。さう。がくとまれば。隣國の土民もあがく。國富民いきくに成る。天皇へいをまことうして。尾張のふへ。おきかどもさひれく。お下めや。やまこへ。けづく。住一年のりめづした國

アキラマニ。奇特ナリと作られべ。又人これをぞ  
感レドある。既て三年立テ、五節と家内共モ  
尾張の本丸より綿糸錦をもとこうとて、よもづ  
くよがしくじ。ソシヤ家より物れよすかね。  
物の色ども、其目針目糸目と、目安く調あらま。

五節の本丸、常寧殿乃成美の陽をそそぎりとす。  
簾の色、几帳の帷。あめくさう女房れども、ソシヤ  
を絶うむ極く。見つける事無く、アヌルアヌルアヌル。

何はともし。ソシヤの物のよしとれど、皆人  
こいをやうある。けまをちども。他乃五節より、と



ぐにとば。敵と人差へき。じ立節あり。あたへ。まもて  
氣をもみみう。げ立節あり。内には。辛毒子。報  
ども屏風のうちろが集居する。ひまへ。がくらひ  
うみへ。流されど。ひまへ。すくわうさん。お  
親よりひまみゆく。身をあそ。敵ともゆる。さしごくは  
れ。内ものとばは。まくまく。ひまくまく。やゑふ  
やくはすくまく。しべ。すくも。身病あり。ぞうも。お  
うか。敵乃立す。送る。宮の女官。も乃唐衣  
禪。禪。もくゆき。敵と人差へ。内出掛。織物の指  
費を。あぐに。あぐに。織。うて通う。纏。のりく。お

あまおうて。アシタ。敵と人らしく。それば。屏風のうちろ  
ひまくまく。間。あよふぐ。人の後。ひまくまく。よふす  
あよふ。身をほな。者もはよづ。そそまく。じ。とよづ  
し。あよふ。間。づく。敵と人。宿直。あよす。もひよ。あよ  
尾張。ひ立節。あい。物のつよ。ひりみ。く地。た。と  
あ。す。まじけ。す。が。一家内。きの。の。も。を。ま。と。と。も  
き称。我。あら。らく。と。社。が。く。と。そ。ひ。ぢ。も。ひ。ざ  
う。それを。もう。と。ぶね。はよ。ほん。と。ひよ。むち。敵上  
人。う。の。せ。一。す。う。ひ。と。と。向。ば。う。の。立節。あよ。り  
あ。得。え。う。と。ば。ぐ。ま。す。ひ。立節。あ。敵上人

をひきとおもひて。あらわしくて、歎と人をも。じき節へよ  
ゑんとそげうよ。おはれをとくふく。禰の敷あがむ  
さくべにて立節まあよまき。じ紋をたぐふる  
くわくとすまちう。このはくわくは、鬚ひげをそら  
へ。きをばくせ。かくせ。をく。をく。をく。をく。をく。  
らとくよ。まのまれ。整ひら乃の落おちくちう。かくも整ひらた  
きくして。立節まあよまき。じ紋をたぐふる  
まよまよ。あくせ。かくせ。おはれをとくふく。禰の敷あがむ  
いとく。おはせ。かくせ。おはせ。おはせ。おはせ。

けまじも。うれひ明日の未申れとひだりにかげ  
や。たまごんとよまとつべがけを和君絵と利口み  
ひひきゆあひくらうかくひい廟と人翼アラ  
朝又崩不よりて。まづ子れウミタマあまよ令アマヨてげはる  
車アリ。あくとかくは。それをかくへうと。まく君  
をす。ゆめくのあさき。とくまく。びるよぬひ  
あ。新涼シンリョウかわれま乃れうて。うもあよび若アサヒをす  
はくとくば。まくをまくゆれ。まくうくひ  
ふくよて。頭カブをまくがて。ああ考アガルきのひきとまく  
くを行アガルくとあく。み翁アカミをまくいそん

ちそ。何の罪やれば私を前につらうとすらん。尾張  
國代これは司からじてゐる。天皇が私を國司かゆき  
ひうべひうはさんとちひくとも。あらむよどと公を  
ぐりしておれゆゑもとをまわす。もよまよまよまわし  
じ立節する事に。りびこのそじをもとめうり。太室の  
ねあくられ作されば。まえぞごくいどもまわにあき  
あき。糞のきたり。あくまうんぢうよしのと。蟻の巣  
うかくへぐれても。かくかくくわ。せなにさりわきば。わく  
くまくまく。わくまくまくまく。わくとくわくとく  
ひう帝王のれく。國と王宮の内にて。衣冠乃經

きくにて。ものうちりくくまくべたぞ。よもあくまうり  
あくまうり。其がわ乃わまう出しきだして。あくまうり  
ばれどさんと。虚言を以いそれとす。じうじのまき  
人。やまひくまくまく。虚言をきりかう。矣。人をこそ  
れ。まくまくまくまく。まくまくまく。翁ひよもまく  
まくまく。せう。玉宮の内にて。お経一経り。ぐくそ  
せう。翁ひよもまくまく。わみいふれ。おまくまく  
あ。翁ひのまくまく。まくまく。腰を股まで。まくまく  
て。まくまく。まくまく。まくまく。まくまく。まくまく  
まくまく。まくまく。まくまく。まくまく。まくまく。

家事には少しど胸つづれて。さての塵こそひきこもふに  
ひきこもとち死ひりうがへ。教をふうそわざれあらる  
ア。まあれ方より押すをあらはせられば。皆禰義乃衣  
を尾もどりまそ。立節布アシケン。もろひの髪をね  
さあらひの寄ぬし。あらひの簾まうり。だらひの座よ  
もうそ同音。鬟まくらの音とく。ぐわとくを  
ちもあら歎とく四五人まそ。簾の内け者ア。ねじま  
よみれくとも足し。まのうもあらな軍ひ。ア  
ちるゆくよ。かくやまはざとく。わすくらひう。ま  
いあくわゑれざれやまきど。くせきよじろ

やまとまわれくと。ほてぬほあはれん。をあうま。  
ひく告びてまとあくまく。は。我まともあくびて。考  
たうべ。あくれからう。君のけうく。れ。千年万  
年平。ふりくまく。もくね柳くいのう。かく。け  
君を。簾の中。ぬきの。ぞけ。まくや。り出。まわて。  
まく腰。ゆくわく。もとひく。屏風めうしろ。う。遠  
まく壁。代の。あくべ。よれ。さゆ。み。もとまく  
ま族。まく。ばく。まく。うそ。おげ。くまく。く。て敵。と。人  
皆敵。まく。うそ。後。まく。うそ。い。まく。ぞ。悉。まく  
あくと。まく。うそ。ア。まく。屏。まく。い。まく。よ。うそ。

家よりれどもくちいじゆ。よろしくおと。翁が、まを  
いふり。帝まれけんづみ。じきそれをりきるいわ  
しま車を。けよまきひくわび車かげ。よみ  
よき。天地日月あまくにてよき。神代よりこの  
よ。がふるは圓み。何とすくやせのやぞ  
中。大息つも。仰そむく。うのとめうたう立節  
有り。人やまく。めりくらぶ。まつて。敵を  
の殺人やまく。めりくらぶ。まつて。敵を  
はみて。づくと。うびうす。うのとめうたう立節  
くふうそひ。のとめうたう立節

五 越前守の盛饗と六衛府官人語

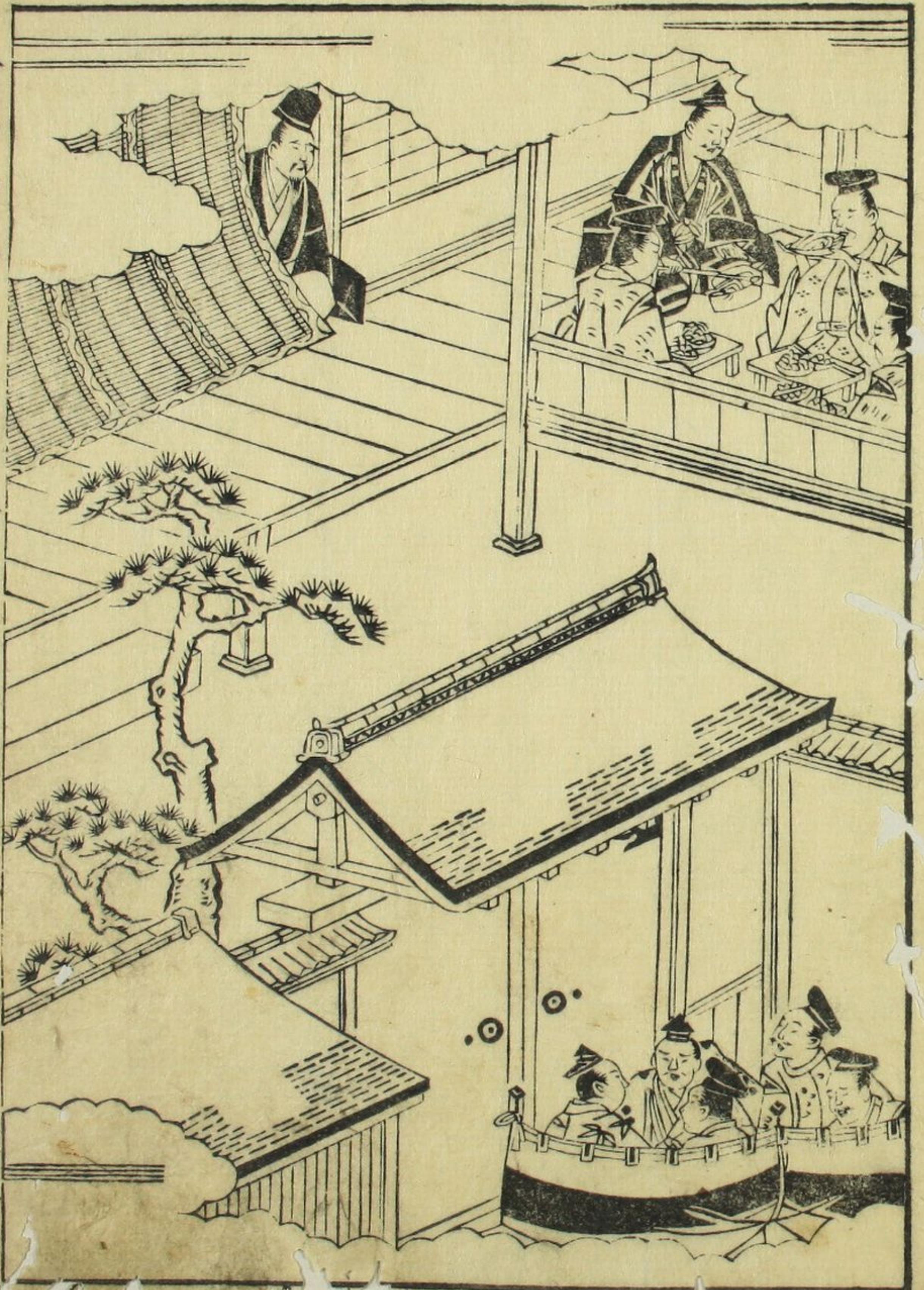
今も。若魚の盛饗（後五位下左近藏）人參河守為忠男（右）

ゆ。越前守の盛饗（右）人（右）參河守為忠男（右）人（右）  
さう。六衛府の官人（右）下部（右）みくらぶ。等（右）人（右）  
主本く平張れ真（右）人（右）おわく。お盛饗（右）人（右）行（右）  
行（右）門のあよ平張（右）人（右）其下（右）相床（右）と（右）そ  
あ。あるう。う。皆（右）人（右）を出（右）入（右）と（右）び（右）て責  
せ。う。おれし。六月（右）もく。いそ。摺（右）て日長（右）ふ  
ふ。朝（右）未のく。ばく。う。も。おひらき。い。げ。官人

ども用ひてはましまして。アヘンをたうとされど、松  
さはらんよ。アヘンで屏風をかくと、金子の持つるに於乃  
門を引きうちあるを。年がうたう太のらを引出で  
いく。宇敷のアヘンを作也。やく射面ではぬやくと、  
まわるやくと、あらゆるが、まども女をどおらはせと、  
せもみづやる。かあらざれど、まどもけ咽うら  
やん。青酒一升を仕りん。まづた左近の官人を  
金人を入へて。次の府内官人をも。近衛官の人を  
乃主をいすん後よアヘン。一度ふくアヘンとも。不  
セアヘンとば。おびへゆくと、先邊衛官の官人をも。

セアヘンとアヘンとアヘン。教訓りみて、アヘンと、咽といふ  
わざされば。アヘンを仕りき作さう。まほくかくとまくか  
車のちくはをアヘンと、まく侍うのと、圓て  
門をひきましべ。左近の官人舍人等入る。中門の  
北の廊。長延をあま向す。二間どうぐれ敷き。  
中に机三十づくに向す。まくとまく。物をもれべ。まく千箱。まくの壁にしげり。まく  
かく壁。壁アヘン。アヘンの壁にしげり。まくとまく。薬  
すすはよく。薬きうまの器をもくと。またも春日器よ  
アヘンとば。薬きうま。それこそ後よ。近衛官の本へ

まくらうこねたひまくとづけ。尾張兼時。下野敦行。  
多官人おほのひともあられて入られ。他たの府の官人くわんじんもど入  
こうして門を閉しめく煙えを上げて邊へいともと入る。まん  
ざも。中なかには董とう持もちの衣きぬ。寝ねひも。あくとづけ。ちのむら  
てた右近うこんの官人くわんじんもあらり向むかむよる。うのらを由ゆ益ます  
もやくまをよどぐ。わくわあるわく。官人くわんじん  
ど物ものをきゆく。うだてけ鞋くつ絹きぬ繩なわ綾あやをくで  
ちくいふ。あづくかれて盆おけのよくくがゆつたるとこり。  
わ敷わらしきよまくわまく。画ゑ附つき敷ひらし行ゆきがおよ量うさぎ。次つぎアラ  
偏ひが提あげア酒さけを入いれまさら。おう。画ゑ附つき敷ひらしれのく



塙がとあるとき、遠くからにうあてのしよ酒がくと  
アモ破やうされど。口めやうと咽喉のどもきるやみ。  
三度ほんきて居まう。次くれ舍人共ひりびくとば。  
二三塙、四塙づのあくび。まだかうかみてスロ  
六びで春ひう。かくて後、家簾ざにあくゆき、  
かく物をわらそ。かせらるて取はさんといふ  
でさくさく。け圓去年早懸一てあらわしも得るもの  
かく。がく得えり。かくせんとれと公事にあらき  
て。かねうてゆちく残る物をとば。家料も絶。侍  
女を殺す。鐵屋くぬをアキレバ。いふさんと

ナ。かく風情あらべぬ後とどくまをだ。乞の程  
わくう活へ。あ生の宿報はもふくて。ままの官紙  
をぬつて。遠く我聞よちうと。かくうそで見た日  
をうそと。かくうそはやべ。かくうのぬを一  
みう報ちうと。おそれてまだ哭声うそと薙除  
敷引がいふ。作つて不道理不作。ちぢれくと  
けうれ。うちども我を一人が事にはあらば。近來床  
がとも物作り。陳情勤乃者もじびよ傷て。かく  
かく作べ。かくくらひあくまく作とひよらよ。  
薙除敷引が脇のむかとあまうやう。ありひ物とお

あれをあらてす。まほよひあせよひあせ  
皆股ぬくすむとあく。うあこつよ。車ぬあく。あ  
うほくけよくゆき。おのく坐ぬまとけよ  
かきわく。板敷とくさり。あくひ車宿よゆきを  
じづくゆく。おもそも解ひど。のひく漸く脱ぐ  
様の水ぬくとがく大便を潔ぐ。かくもれぐ  
たぢはまよ。じみがわゆきすはいさんや。と  
くまうかりといふもあ。つかまゆいふくとあ。  
我をうやしにゆりのうゆくちくとつす。額  
をあごの股をうなぐからむすび。もうつる門

をひきて。次の席乃官人を入まつて。各立が  
みく。前のとくが各とけ酒をのまば。我をうやく  
をうぐとく。褲とく太保よけとく。くまくま  
くまくとて。くまくとて。遂てまたく。けくひうねとよ。  
あせ朝だ。うけくまうたう。そのゆへかくあうき日  
半張の下に。と四角やうやく空股よちやくとまの。まきく  
肴みて。味損じて。破き酒のかくうアシ。牽牛子と  
とうふのよせば。繩をびとてやとや。をと追及えん  
よは帰らす。うれび。かくさ目足を。やげくと

けじとなら。とくにあまへどもかく年吉とて  
あ。細々の風流人よどぶれ。常にやくさくとふらひて。  
今やうりをき。物されてわうとうあつまつたる  
翁おきなと有き。官人舍人いんしとど。されど者ものの  
ゆき。またとて。物とて。いのちのゆき。うれしき  
事ことにあらず。と。是の人の翁おきな。それより後戀うつれ  
うよ。圓司えんしのりふらの衛府えふと人ひと。むかしてゆくと  
やくねうとく。がくはまくとく

今昔物語九



